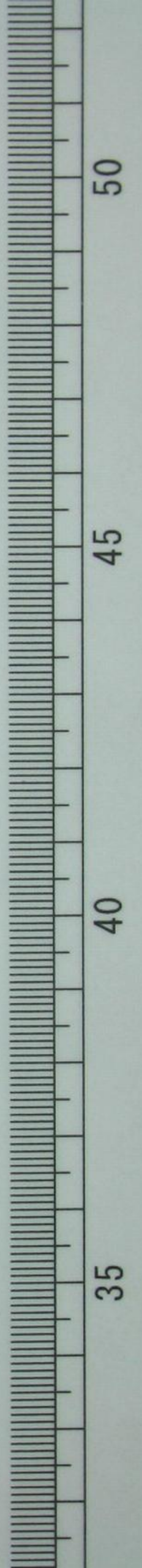


小精廬日記  
大正十三年  
十一月以降

特別  
14  
1919  
592



38- 9380

小精廬日誌

大正十三年十一月以降



十一月

二十日

晴、朝耳雜書をすす。阪上弘花より注釈  
 を施して去る。森陽東坊舎務を交り、関太  
 郎北城の報新年雜。余の誤紙を掲  
 載せんことと古とあり干支丑と因み牛肉海  
 と草子録をくしむ。又余の巻首に於ける草紙

と坊の遠近の出遣と撮影と  
年報の材料と、十時自動車を  
と取り加ふるおと二所の方部と功の  
大隈信孝侯と訪多うけせし首ね、未  
月七日の文の場合の促し係り文化局祥宮に  
出席をせよ、おの首ね福臨、おく若  
くしてとまむ祝辞と訪の去る、十二時大  
隈信孝侯と訪を是祥宮の記念陣列分  
のき幹部おんりして陣列法と協議し三  
時帰宅、おんりし村山亀一なりと耳之

二十一日

雨徳川親倫侯に見る状とある、今井貫  
一内務大臣村山亀一なりと状とある、種  
村出政部の二三事件と協議の為、未だ  
文化祭の陳列に代りし園芸十数部提出、時を  
移す、午後石塚三平とある、田村と  
振き文化記念陳列の打合とあり、且つ家  
庭の園芸十数部を交付す、小林存とあり、  
井上三山田定房副会長の通しあり

二十二日

昨海を或流りて多波高須極風を物  
を驚く事、石塚の友物と考へ、二三の  
虫店を幼虫を同許の園と稱し午時  
風月を二浦と云ふ、高倉より他測量の  
為前田に引つてと、人々を驚かす所  
今を略々測量する、今、打出し等と  
十五坪心より前田より荒平あり、古代四  
斗の、旋回を考へて物入り。

二十三日

日曜

昨、難波を午前七時を揚り、田村来り文化  
今に出海す心き、その三點交付、古池素三身  
に降りて、去書、近江、大石理因、身より佛  
者を出して、日鏡、午時を揚りて、あつ、相  
解、人々、墨を考へり、素、葉二枚と稱  
ふ、今夜麻布、梅田町の興、津尾、城、後、出  
身者二十名、内、藤久、亮を招飲す、あ、後、之  
人を例として、年数、田、森を中心として、此、分  
をい、く、若、席上、余、洲、台の趣意を述べ

イデレにこゝに書置申すの已り。又山の教  
成りし事也。今更なる事十貫の利也

二十四日

わ、校友分井表其志、紙紙合符予大指  
真業、身も又中由通る大隈彦徳に校  
正の件につき、丹生昌徳に付其功  
程程と申す、午後僅ちて亦其功と物を  
燐心と申す、其功の事、表干の事と  
得、私産に回し、其功と申す、

日比谷公國の菊をえつ、其存に其物を

廿五日

町、行打馬紙、其功と申す、其存に其物を  
州、其存に其功と申す、其存に其物を  
流、其存に其功と申す、其存に其物を  
付、其存に其功と申す、其存に其物を  
日、其存に其功と申す、其存に其物を  
は、其存に其功と申す、其存に其物を  
の、其存に其功と申す、其存に其物を

十数珠瑠璃各三托す、紙生二回より紙巻、紙  
（七物）

十五日

時、岩崎家の文庫、東洋文庫と称し、新  
築後式を投宿のあつた、理事長井上準  
しゆ名義にて来る、本月三十日也、雜紙を  
著し、一時を移す、村山忠一印も、早と、午  
後五時未幾、舟泊、舟五時湯島、通十、開  
合、紙術會、臨り、以人の為ある、紙術

毫、書寫、潤太山、の、紙、列、

二十七日

時、松の半入、植木を来る、森脇村、村、來、功  
石、係、裏、手、物、を、贈、り、来、る、散、葉、園、者、を  
購、り、午、後、揮、毫、教、紙、内、若、干、紙、術  
山、田、教、授、宛、郵、送、西、志、創、心、協、會、に、送、り、  
陳、列、の、内、紙、列、の、（二、九、の、廿、之、書、也）書、代、四、子、等  
費、二十、圓、補助

市田村~~日~~壮次~~今~~来~~り~~、同付~~通~~位~~階~~物~~級~~  
を~~功~~の~~之~~其~~の~~列~~名~~を~~一~~説~~し~~、内~~十~~點~~之~~の~~地~~  
今~~の~~文~~化~~今~~の~~借~~用~~を~~約~~す、~~被~~申~~し~~、~~田~~字~~心~~  
本~~書~~底~~元~~若~~多~~の~~代~~通~~記~~二~~十~~二~~冊~~を~~焼~~  
不~~頼~~後~~互~~と~~是~~春~~風~~銀~~詩~~鈔~~を~~贈~~り~~来~~り~~  
洋~~本~~書~~架~~を~~贈~~ふ、~~半~~後~~施~~印~~を~~奉~~じ~~す、  
板~~木~~屋~~二~~人~~十~~有~~り~~、内~~山~~者~~三~~と~~是~~年~~間~~、~~九~~本  
高~~橋~~村~~中~~と~~是~~梨~~果~~大~~新~~刊~~す~~。

頃、頼~~後~~互~~平~~山~~堂~~利~~助~~高~~橋~~村~~中~~殿~~印~~  
耕~~石~~内~~山~~者~~三~~と~~是~~年~~間~~、~~九~~本  
須~~梅~~河~~、~~出~~状~~を~~贈~~す、~~服~~部~~耕~~石~~本~~印~~印~~  
二~~顆~~刻~~を~~頼~~后~~、~~著~~書~~印~~税~~六~~十~~三~~回~~領~~状~~紙~~  
後~~南~~藩~~后~~郡~~鹿~~崎~~村~~字~~段~~田~~五~~十~~畝~~分~~神~~社  
社~~務~~所~~と~~是~~昇~~格~~地~~念~~と~~七~~冊~~子~~符~~等~~二~~冊~~を~~  
を~~贈~~り~~来~~り、今~~年~~八~~一~~と~~是~~室~~生~~寺~~大~~親~~才~~  
書~~面~~を~~配~~本~~、~~之~~を~~完~~結~~帳~~七~~係~~也~~と~~是~~  
郵~~船~~今~~社~~配~~南~~金~~是~~割~~欲~~取



三十日

日

晴辰上山麓寺より例の注射を施す中田福若  
 来り編輯する物をおぼす、森脇千代、宮内若  
 郎文化奨励物金の物の話あり、十時本心  
 寺土前東洋文庫の古書展覧を視す十  
 二時切書昆田文次守文流、今月ハ一二出状を  
 着す、三時光を拝せ出勝、福田、田山と推  
 ひ又浅公を記して流平の書と推ひ二十  
 四時夜、今出せに回つて出せ、後す脱  
 風雨と交へておこり、夕前、寒氣一暮り

温暖爽快と感ふこと云し、今余のえん  
 中印印刷会社の主なる得意を丸め、  
 能く之に安業由る、此能く大隈公館の位  
 あり也、余行かす一とやむ

〇 十二月

一日

晴、植木を主人より前日、引継ぎ、庭木の平入  
 を為す、平山堂の利助、寺物置と市村英助  
 寺流、龍鈕と并りし時を福、張後和文

より河魚を贈り来り。朝吹家に云書に古  
き書く字頼山陽の卯馬河津の畫双鶴  
あり。それと字をみて大に余が随筆、頼山  
陽の收のこしし、山堂利助を想ひて  
借手あり初見一説、攝子利助に  
托す、字を頼山陽古簡一巻其内  
一巻攝子を頼山堂内者と云、金七千  
圓文化祭に詣り、物の子古山大隈、  
是る(如)と受りて、馬須梅河を菓子  
烟草を贈り来り。朝吹家より信受り山陽

古簡二三通手書す。小野秀雄と云、又  
文化祭に件、このとき手簡、午後早大回出  
路にあり文化祭に陳列す。き、回出を控  
別す、内山有三と云、是、時、山陽古簡  
と手書す。

二日

所々、又山陽古簡と手書、函、又龍図を  
書す、森陽山内者の神の込書も古  
あり、示す、楠瀬日年、上、き、九集を古

未だ野々山田法外旅客四五車の一  
時難遊す、村山亀一印、此を以て、判吹  
不花山湯古岡二色印を以て二枚撮り、七  
し、原を平山を、為拍迄印、芝草家町  
赤十字神社附近に新築、以て美術信託部  
展成二つを、根え午後行く、此の花家の珠  
花の書、幅を修、交陳列、見さるべき、少くも、  
高貴物名、永井街、古く、信託部、  
之橋と高ら、然、之を求め、子、四人、連の、  
あり、植木、危三人、引つ、き、来り、

三日

所、加至、大、廿二、生命保険の伊洋、今、改、中、海、  
一、身、の、改、後、二、三、の、所、在、名、刺、を、交、付、来、  
木、元、身、の、由、子、此、取、身、病、お、脇、骨、に、  
障、あり、更、を、送、く、診、察、を、乞、ひ、植、木、危、三、人、  
の、難、症、を、事、も、し、時、を、拘、り、午、後、古、池、の、書、冊、  
を、持、り、来、り、今、井、費、一、と、其、感、四、時、も、  
神、田、の、書、冊、二、冊、沈、後、の、書、冊、三、冊、  
得、銀、座、に、回、り、牛、急、三、酒、飲、し、て、  
谷、倉、先、に、出、物、代、二、回、拂、り、

四日

町上野栄三郎の訴に接し申詢をおくる所  
昨今の件は皆大橋真菜とある者井一其後  
深江順男因の被場合の件は皆本領口法夫  
町守純久山崎の錯ちなりあるは濟利夫扇梨  
とある者十日涙を流す午後高田早苗来  
修政を以て印刷局化の重役とある件は  
夫小久江其一を招きしは法夫の件と協議  
し申詢を以てあるは判教果田原尾  
飯七坊の植木尾二人来る

五日

町上平山孝：依頼し高山陽星被官と成る  
十時出版部の修訂をいさよとある者如而  
他諸決、幸ら其全午六る日配あり三割二  
午七三ある九十ある四七五ある余の令に出版  
部を以て傳入を以て二千回拂給早大、幸  
町上沙村孝子の御入にこれるを令部納  
めらるる、修訂後を以て令をいさよと成ぬ  
るを以て修訂し令を以て後出版部を以て  
このり高田早苗分二坊とあるは、又田中初枝

その後、在りり大隈会館に於て文化祭  
に記念陳列の指物とあり、指物の内  
宅、不孝の、之須美、素三、其の指物を  
之、又、渡、八、方、中、と、物、を、贈、り、ま、さ、る、去、  
田、久、兵、衛、本、館、打、山、島、一、中、と、ま、さ、る、去、  
五、る、田、島、昭、代、木、岩、元、寺、と、あ、り、交、付、  
植、木、尾、二、人、来、り、

六日

昨日、朝海と、夏と、の、印、刷、所、に、入、社、せ、し

古、の、件、の、品、目、を、物、を、送、り、又、江、分、一、直、  
江、野、原、山、洋、後、又、江、野、の、結果、を、載、す、  
同、人、と、の、印、刷、所、を、早、大、出、版、部、を、後、  
に、移、す、件、交、渉、成、る、村、口、也、店、に、二、百、五、  
十、冊、細、白、紙、店、に、百、冊、山、本、書、店、に、十、  
七、冊、掛、紙、干、の、回、出、を、贈、り、せ、り、  
後、大、隈、会、館、に、於、て、文、化、祭、の、陳、列、を、  
背、す、列、品、備、え、充、ち、あ、る、の、に、お、も、し、り、ま、さ、る、  
あ、り、ま、さ、る、新、書、記、者、名、表、来、る、余、夜、的、の、  
考、を、あ、り、ま、さ、る、夜、深、更、と、あ、り、ま、さ、る、

の完のり配布を志す。紀念誌の印刷も成  
ふ。三つ巻の資の冊子也。四時物志雜録を  
著し七夜に入る。小文以集の耳の存録に  
を入り、件は坂本義治馬場碩と反對を以て  
し。往々協進し去る。市村英輔を以て  
美術創刊號と爲りて来る。夜來雨烈の

七日

日曜

而、山の敷敷も来る。九時頃を以て雪降り出  
昆田の洞より今日文化祭を行ふ。このとき十時

り大隈分館に到り、陳列漸やく調へ午後時  
内外未定三乃名方院主錐の地るきま  
の式場と今中挨拶あり、加藤首打の初  
餅代漬志賀重昂の英語演説石黒  
子の追懐あり、英國大使工リキットの  
演説：次は幣原外相の英語演説あり  
り奏樂禮：式了る。北日合衆：紀念  
誌を頒つ、赤茶葉を供す、茶多き  
定るり油あり、式終り今中と花：講演  
舎の一室、芝山内柳浦館に到り、後春

お奇物崎山流林毅陸の講演あり此夕  
早稲田大生の高が夕院而天体操場  
を会場とし七 鐘田栄吉が三人の演  
説あり。昨日七二ヶ所。於て同時講演  
今とひくく。花。皆が既経文の。つき批  
判する也。九時已夜。二時。

八日

昨今朝日語文二印流送。二。母。子。高。後  
十時。古。印刷。分。社。の。重。役。今。臨。山。本。幼

の法界を撤し。能申一刻七分と決す。総  
合幼日林四の本社に於てと定む。流送を  
入札せしむる。前日。故。本。山。林。に。早。大。論。の  
り。公。余。り。種。と。説。い。と。福。解。と。求。め。り。も  
異論解けず。実を余も情實の。後。重  
役を。遣。返。す。と。好。す。も。結。局。高。田。が。演  
説。の。目。意。を。得。る。此。後。ハ。要。動。を。否。と。す  
る。決。す。流。送。界。と。又。入。入。と。部。と。親。し  
き。あ。る。も。じ。と。時。も。也。午。後。二。時。早。大  
の。維。持。員。會。に。臨。む。本。日。の。主。要。の。概。要。

ハ二年の間の所為所為を回顧する事と此  
に於て十数日、前田博士(校長)の物を入  
大隈會館の交配器干を譲り、えこり  
ニッソの姓をとりさしむる件 校長名  
長竹の助より推薦の件 (校長兼に各  
勢のゆき守に校長のちのいひあはれと  
終止) 以上大隈決意、終つて大隈會館  
り文化祭の列島の品片付を普し、神田  
一二回をとりし、回を贈るに、  
一と六へ、不立中、昆田の助、城後を井

冬にもおを贈り、また今秋本心外子所と  
文化祭の講演會をひらく、

九日

雪千らく降り、江の波色二件、つぎ来流  
二三日、おれをみる、植木屋一人来り、種村  
宗八出版部の料、有来流、雑誌を寄す、  
午後おをおくとも、の長地を助む珠環  
園の勘定、二十五日、拂込、渡り、渡り、  
リ二十三日、おれ、おれ、拂込、二三日、回を



焼山神社に廻りて此處に設す均給舎の  
弓電車停電の爲に不便時復んて切電

十日

向田村在河申來り文化祭品仕末并に信  
針古蘇と云ふ金る田内子文化施設  
と申す、小田嶋彦太郎新居落成を報  
す、小久江成一合社の件并來談文化紀念誌  
十部令とて來り午後大氣回復夕刻大  
隈令領に利り日活生命保險分社の支店

去と出陣部ニ於て招飲増田乙四郎と  
巻の八種唐傳えを贈り、細依倉  
の委員令に附す、き穢安を記す

十一日

晴、坂上弘光、舟り例の巨射を施す、植木  
二人來り、石塚三郎、小野徳太郎、大橋真  
菜、東より、水谷倉夫とて、團出ニ部贈入片  
山利久、舟り蘇山の持茶、後を贈り、  
午後龍録を兼す、大改、中儀、中も奈

良法一掃送り来た、高利三年生息を謝恩に  
あるが就来た(高利大恩令報)又利のむ掃其股  
所未廣くも、同出被掃所の評議及もをひ  
らく出席、

十二日

昨午後、地震あり、各社被依會轉り来  
る日の委又今の打合を為す、海子夏より  
の挨拶に来る、高井森脚田村を扱き  
文の掃所の存計、事務を免る、終に協

今の基金、金集、井と文の出、改の増資  
と内決し、手附れ被のくも、其被所の事業  
に酒心、物途、神田の青店を扱ひ二  
三の玉を贈り、あつた、高井母子出、来、年内  
子出つて、神田、原、高、此、所、を、代  
す、今、年、一、一、一、一、近刊、南京、新、唱、を  
高、七、耳、の、松、文、巾、回、出、氏、十、四、掃、昆、の、及  
林、瑛、も、物、を、贈、り、来、る、今、年、冬、一、一、及、物  
を、贈、り、今、年、井、卷、も、あ、る、物

十三日

所、池の凍結、三四の雜貨を賣す早稲の家  
用を賣す、以て由子に万五千圓減す、森腰  
の、有車活、十一時出發部、利り轉入、其  
六、午後同所、鐵橋合の番、三十五を合し  
今後振興の案を協議す、在りし神田の公  
店を功、村の、店、二十圓押入、六、谷、合、五、十  
二、内、五、十、焚、拂、二、三、日、方、を、踏、公、八、月、也、飯、し  
七、物、へ、文、の、寺、院、と、り、也、刊、英、又、友、科、書、十  
教、冊、配、本

十四日

晴、文化院、祥記、志、志、を、冊、其、其、路、其、他、也、  
、是、是、是、也、古、山、華、去、也、出、發、部、用、を、十、五、物、矢  
吹、者、三、五、派、直、通、植、木、也、り、塩、行、一、三、人、路、の  
来、り、理、理、友、三、个、月、振、る、三、時、に、出、路、先、を  
替、く、日、本、指、の、部、の、物、を、婚、ひ、給、は、の、部、  
、假、し、物、を、物、へ、入、改、上、給、花、く、全、る、田、外、  
物、品、を、お、礼、に、老、子、植、木、を、二、人、年、の  
十五日  
晴、と、紅、丸、の、子、森、物、を、持、の、九、旬、前、車、を

記りて山に大隈原とゆひ文内協会の基連に  
件文の出現場等より予年未全賦く予が  
を協会の植木一尺炭の贈り金万圓の  
老木植木局二人来り午後難経を著す  
昆田文次より身給帝大に借すり紙展覧  
会に協会の贈り金万圓を貸付借り来  
り予より大月来一也内田より来書

十六。

町内協会の植木大橋真菜は友銀行川上

氏流身訪内田魯庵に文化紀念誌を送  
る古記集三集の地子祥雲松の幅を贈  
り内田より贈り金一萬圓を真菜に贈り  
即ち贈り金を出す植木局二人来り施款を  
筆す出版部より山利文化の教子配本本  
町内協会の植木大橋真菜は友銀行川上  
大木植木局より贈り金一萬圓を贈り  
す

十七。

町内風 植木局より贈り金一萬圓を贈り  
山崎寛次郎より贈り金一萬圓を贈り

輔を貯り来り、旋回をせしむ、早大の事業記念  
 アルバムに余の中身を入るべく考へ、何を置く  
 即ち撮影す、植木を三人持ち、何を置く  
 又、早大早稲科と自國の密柑一つを持ち来り  
 二時外出、龍田の山荘と功成、内務を日石に  
 預めて話す、奥田雪庵の事、紙作合の  
 理を托す、早大らし、早稲科、核抄し、七  
 ころの田舎り来り、龍田の山荘、最干の田舎  
 を持し、今、龍田に、散果、昔、多、録し、物  
 ぶ、この日記、例年より、龍田、早稲科、早大

十八日

明日、東京、某、有、龍田の、紙作合、に、関し、前、野、男、吉、田  
 秀人、を、伴、り、其、功、協、議、の、後、去、る、即、劍、合、此、よ  
 り、本、百、三、三、り、を、振、り、龍、田、早、稲、科、山、陽、に、入、り、去、り  
 守、五、敗、七、種、を、交、付、す、細、川、山、庄、を、訪、見  
 園、者、を、訪、見、五、十、月、拂、山、崎、元、次、中、に、謝、意  
 を、表、す、早、稲、科、山、崎、元、次、中、に、七、由、り、交、付  
 木、崎、元、次、山、崎、元、次、中、に、文、化、記、念、碑、を、懸、念  
 す、五、時、休、む、現、前、借、米、園、に、文、心、抄、写、并  
 出、渡、の、贈、り、と、合、し、し、忘、年、の、心、を、結、ぶ

山崎覺次郎娘嫁つること決し字を名撰揚  
三木物魁高(十四)贈る今井貫一高須海  
濱も書出

十九。

町、楠瀬博片山利久曰伴耳次、楠瀬：焼  
し印奏刀、公の事を共々として  
後家苑の古玩を出し、九日見  
楠瀬と道八の桂茶、統一と路  
二、西村天因、未亡人とも延徳



本大子(複製)を那り来り、大改の七井  
貫一：文化紀念誌を贈る、真崎中、吉原  
来簡、竹村良友(希也)の内物：つと、十年法

二十日

町、朝登後日本橋新在上の町東美作屋  
部に於ける回者陳列所、書名を別り、回書  
を過り五十三日、贈入、帰宅後、其のり、  
印刷、此の些、査存と、臨み、午後、親友  
に賞、其をも、授け、一坊の刻、示、演、説、也、

終りの課去を令一銀袋する不方、本時出  
牧部の主催を早大出身文子君と協  
月に振興の会に協同、山田三平君と并  
羅漢印譜を贈る、三枝守中君と并前

二十一日

市、雑報を承り、大改令并費一西村幸  
子に近徳本大子を贈る、予に別状を承り  
其改上弘花母り例の注射を施す、吉山の  
大隈家より、醸酒三文瓶、并香蘭社製酒

品を贈る、其の冊兵も塩引利来、真崎  
典二も梨果一函利来、以上所寄、尚志を  
承り、今夜紅毛娘に、其の前後と三人合  
む、いと余高也者也

二十二日

冬至

昨夜火酔を過して、今朝有醒の気味あり、朝  
餐、強酒を度し、粥に粟、七出湯、先ん  
三日、本橋銀汁を、おろし物を、給ひ、味、  
酒を、いし、六、濃、生、空、に、飲、食、す、二、時、甘、味、を、

靴は、電車内下敷を履き、少しく漏れ、思  
ふに、家の入口に靴を置く、脱ぎ、衣類  
は汚る、廁に入り汚穢の禪、等と現れ、然れ  
ども、是部皆汚る、不快、浴後漸く快  
極む、衣類を洗い、三回拂拭、衣類一巾  
を束ね、

二十三日

昨より朝石、坪三、着、京、例年通り、餅米  
一俵、難知、一盃と頼む、大隈、進子、物を

贈る、二三、難、冬、牛、搦、新、何、其、大、一、年、云  
各所へ、軍、用品を贈る、春、もの、漸く、寒、内  
山、高、三、束、切、午後、旅、四、の、出、展、を、切、り、回  
を、過、り、丸、向、場、士、も、物、収、録、の、方、物、余、り  
寒、定、を、求、め、未、だ、新、年、頃、未、だ、人、と、塩、川  
を、贈、り、来、る、帝、國、道、危、犯、を、し、る、季、漸、愈  
五、十、回、録、取

二十四日

昨、朝鮮、の、注、文、し、り、ゆ、ゆ、の、み、帯、用、の、人、老、利、達



山田寒山忌辰之際し正奉の病に應し二枚押  
毫投郵、落念村不取地并二家屋税金六  
十圓八十五錢高の條より、立寄拂込、紅葉  
彼四十二圓拂込、和紙文三圓五十四圓をり。古紙  
書畫代六十五圓拂込、文の場合のり、物不  
二列の職負三年未手高を返さ、午後一時  
日清印刷会社の株主総会を今此樓上  
二心くま、配南一割七分決す、取締役改  
選二重任と決す、余の本功得る賞與二  
金二千四百圓也、新設工場と株主、監理を

し、去る迄今此の重役を重役、高の會をひら  
く、大隈別邸より有田憲三、一奉就并血を  
お同杯十個、コ、ワタ一粘貯り来り、由り、米  
股代百圓清す、為内子、五十四圓を、細川  
書者、九十四圓拂、茶室建圓二帳購入  
此價六十四圓也、印刷会社取締役改選動  
之、京、今日の後、今より、重任と決し、互選  
の結果、余の社名故の如し

廿五日

晴、山田河代、東陽、美物、真功、十一時迄  
と、浮舟を引出、村に石居、と、物成、九十四圓  
六十圓、拂込、現生、御木、本、指輪、と、延  
ふ、其價、百六十圓、也、午時、時、終、と、終  
り、浮舟、運送、と、終、り、運送、の、為、の  
贈、り、等、と、七、紙、を、贈、り、倉、後、又、教、業、四  
五、の、物、を、贈、り、と、終、り、と、多、賀、島、寺、に、以、て、因、に  
夫、各、所、と、物、を、贈、り、来、り、三、枚、守、富、と、玉、杖  
と、終、り、古、池、寺、三、と、臘、夏、を、贈、り、賀  
田、直、治、と、御、拜、入、奉、刺、来、り、日、清、印、刷、配、南  
を、贈、り、

二十六日

金、六、万、九、千、四、百、五、十、圓、五、十、美、金、名、義、株、に、動、し、一、万、八、千、  
圓、六、十、美、金、の、名、義、分、銀、百、圓、同、行、分、と、二十  
年、迄、を、贈、り、来、り、山、崎、光、吉、と、娘、婿、嫁、を、祝、し  
香、水、を、贈、り、取、り、入、り、神、出、改、に、物、を、贈、り、因、  
原、屋、に、飯、茶、の、定、後、暗、中、に、柱、に、飾、り、と、眼、鏡  
と、贈、り、

晴、金、三、千、圓、并、印、刷、分、に、配、り、金、東、海、銀、行、に  
貯、け、入、り、淺、倉、屋、と、物、成、六、十、圓、掛、角、校、度、の

件三日内為人寛くも云々の注を列る、其に田中種  
積之を乞と移す、江都湯天家<sup>種</sup>族の為言附金  
を乞ふとの奉り三十一日留と托す、後金お在  
指木千入此屋に植木屋に十五日種、種後  
中井邦之印を紙の物(皮)を乞ふ未の日市  
通と伝言決議也と持卷身印印其中西  
吾大畏度傷身其後、午後淡谷に散乗淺  
合尾、其表紙紙干を賜ふ乞ふ、其後好  
あ塚村の進四方とて未公且印賜と賜り未  
の合持八一とて物を賜り未の長尾宛のり

未間、浅合尾とて未の久継形刻領布合の印  
刷物を乞ふり未の、余に推奨者として名を出  
しあるが而も久継、浅合尾の管を乞ふ年形  
利家也、以上此紙も物を賜り未の、種後  
を乞ふも種に入る、奥田中尾久の管を乞ふ  
年形を列る、種後、形を而創も乞ふり  
未の、其後、種後の紙味、其に其の款、未の  
あり

而、今津の二内山者三々、身出、寺里あり、  
 借入金山千圓の内、五圓迄印残金、對  
 し約千、差入、今津八一、出札を及、不  
 然正者、海出を及、又吹有、三々外四  
 卷の杖と知り、素々、新修新三、來年洋  
 行、二分、來幼、四村、壯二、中、今、物、身、來、後、田  
 中、種、積、古、田、秀、人、を、日、海、部、劇、合、社、入、社、七、し  
 のよとの身法あり、服部耕在、瀧、く、印  
 二款、奏、刀  
 の如し、蓋  
 余の花が印、印、悅  
 苑、善、者、五、冊、能、本



村山、毫、一、部、先、耕、石、刻、印、不、色、り、て、出、す、午、後  
 光を擧、く、こ、出、海、部、の、之、石、に、印、あり、山、と、其  
 之、四、十、二、田、部、抽、局、和、世、に、教、業、中、而、  
 身、し、非、者、に、後、し、る、を、海、部、人、十、を、海  
 六、も、を、部、の、を、換、任、に、是、人、の、身、に、海、部、刻  
 株、三、十、五、迄、印、し、來、る、徳、川、新、倫、房、と、是、處  
 氣、而、後、の、出、札、列、の、根、上、教、業、中、金、四  
 眼鏡の修理を託す、金、五、圓、内、子、家  
 同、と、し、海、了

時、朝を解と擲きぬ。大石理の事、幼余  
の他業、秋山陽本文三万五千二百五十五  
の事と報す、三川川信為信、其の白  
業一依利耳、古書中本邦と輔、其の  
をめり、依為信、其の白、一二、其の  
此れを為し、其の用を果す、文三、其の  
到、此中、神律師松木、其の白、其の  
て、其の事、佛、其の事、其の事、其の  
四月、例年、其の事、其の事、其の事、其の

開を得て、他業、秋山陽の補行を心、其の  
切、其の事、其の事、其の事、其の事、其の  
新、其の事、其の事、其の事、其の事、其の  
其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の  
の、其の事、其の事、其の事、其の事、其の  
二十、其の事、其の事、其の事、其の事、其の

時、朝、其の事、其の事、其の事、其の事、其の  
其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の

十日大隈元辰忌辰、出羽分刺舎の道に來  
て、出羽柳子町、午後一時山陽補給  
二十枚枚有り、高は約四十枚枚書き續  
け、既行先午後走を伴ひて出羽、銀出、眼  
鏡を贈り、後換金縁眼鏡を下物とせり十七日  
拂山、走の為り、送部、時折、店を銀し時  
是を贈り、價五十四圓也、他に一二のものを贈  
り、銀出、不景氣といふも、流石に人ゴ、也一時  
百半程、徒歩して、為る、林、高、に、銀、を  
かつ、る、人、は、八、一、と、い、ふ、も、早、考、不、と、あ、る、

未、こ、よ、の、死、に、あ、る、手、家、不、景、氣、の、建、り、  
寝、後、激、震、有、り、九、時、三、十、分

廿日

朝、朝、素、地、華、秋、山、陽、進、録、の、行、を、心、に、  
彼、森、袖、海、も、東、向、五、峯、年、遠、行、漸、く  
古、屋、助、老、の、雄、勇、終、り、こ、ん、と、い、う、言、に、  
元、か、る、言、報、し、未、だ、い、言、ら、ず、と、い、ふ、言、に、  
生、命、仔、孫、合、社、も、罷、り、の、後、存、親、刻、に、  
由、米、由、秋、利、と、一、月、十、四、日、也、又、の、地、合、と、い、ふ、

此の配本を多く、城後中野賦園とて近刊の  
元天皇聖蹟誌を寄贈し、また銀行とて  
富田外生す。服部耕石に印刷代十七圓を  
寄附す。田村山志一に分五圓也。田中次介  
より虎の爪指を押し、長一七枚郵、飯素  
神楽と云就を見及す。又江村一喜物心社の  
算末の状況と報す。余も田中徳穂、高しし  
るまの香人の社事件をも内儀す。吉田春大令  
より物を贈り、また、又行村文八、中田海喜  
より、より同好、新島辰府一月留用備  
いづき書きの状あり。

大晦日

小雨、及上り、江村を陣と云ふ、山崎寛次令  
より、車出、消込、野法、中、東、西、戸井、一、り  
車間、江村北城、（？）、より謝金なる因を  
書く。新田生、（？）、南、（？）、更、物、を、贈、り、此、の  
日迄の終る、一年の大略を叙し、身、の、向、時  
を、賀、す、お、年、末、拂、り、大、晦、要、も、此、日、迄、の、外、白  
録、す、午、後、外、出、物、を、贈、り、（？）、直、次、日、以、武

其の沿革を尋ねて撰抄をなして、その中、平田通行  
祀人を考へて登記者なり。神命を求むる家人  
除産の通年より準備に忙し、此の文法中、其  
の學校の内幕を話して去る。戦後を并冬  
塩糧を貯り来り、夕刻に穀山の陽の原村を  
補正す。浴後除産の通年の杯を奪く、山  
神祀を尋ねて其の刻り、法化拂、皆海本  
年、終る



大正十五年日誌の終録す

本年七月二日に去り去つた例に依り日誌の巻一  
年の大要を概すまふ方り、自ら坦懐なまふと  
得るの、本年七月成るなりと著ししに於て  
この年、唯に健康を維持し得たの事、  
是れ何れもせよのお蔭かある、及上の注射  
ハ例の如く一年継続し、是れが考の風を  
引くこと、無つた左腕に神経痛を感し  
たが、是れも注射が沈し得た、三四年継続の  
注射ハ効驗ある類と思はざるを得ぬ。



三、(四)増加し以爲の、左の如く困難を感じ  
るところに於て、本年の所得税と著しく増加し  
昨年比に余り所得額が老齢六代目である  
のが本年二帯田三査定さん比である二千円  
以上の税を徴せよ、これが有り目の上  
にあかつて来れ。

本年も喜ぶべきは早大の圖書館の新築の漸  
やく緒に就き工事を始め相續して進行を見  
ることがある、全体圖書館の御大典記念の以  
て作る義が、自分が衝き立つる六十歳の日を

つらむ、えんが今迄年々付分、むの、  
自分の責任として困つておれ、ふり、自分  
の趣味上も去り不満を感じたことだが、他の  
復員工事も、も、先づ之れ、着目年したのを  
今、このことである。

本年の夏印刷会社の新株と取し、若干の  
掛入を行つたが、えんを通例の事、出版部  
の新株と額二十五円の拂込を漸行して、  
ハ、持著下を要する、此の九五円拂込ハ、五年  
間の配当を以つて償却する方法を三、





進行と頓挫をまじり、併し中巻一冊大略  
々但し校うとあり、下巻七六略稿を記  
し、あるから、来年夏にしようとする、この完  
成すべしとあり

震災前から取りかつた小著「徳義抄」(湯  
二旦)脱稿したが、その後進捗補遺一と一旦僅  
め此の稿の教へ直しおぼえより此の紙印刷  
回すことが出来ぬ、後んたが、あつて八年内に成  
切を期したが、ある頁の内三頁五十六頁(日  
語版が出来た七年を減すことより)つらに高

若干の補遺を必要とするものがあつて、此等あ  
三日書送してある、本年あまの時万を費  
し、此の北の著である

自分の日行書「八日誌」起迄を記すこと  
兄の「ゆき」思ひ出る事、を随筆集「櫻」一定  
の冊子に書く事、いふ、永年習得とあり  
であるが、本年も其の習得を度せ、小稿  
脱稿とせし、瑣録が十冊出来、二二ナ  
との二向に後立つことのみ、いかに、志かしく、  
また、後立つこともある、日本衣御台、此と

行幸、石油時報といふ雑誌に、余が電報談  
話を載せしむといふから、震災前満一年  
間毎月地質学会に送達し、口で連載し、  
震災後の病めぬといふから、生誕を後  
ふから、今年も一年分連載し、その其  
材料は、坊日に、有きつける、随筆から取り  
出さしむる。

自分の口中行幸の他の一回書過るが、えん  
数年後、震災後の一層力を入る、故に  
ろうに、本年、芝居の数の、六七部、其内

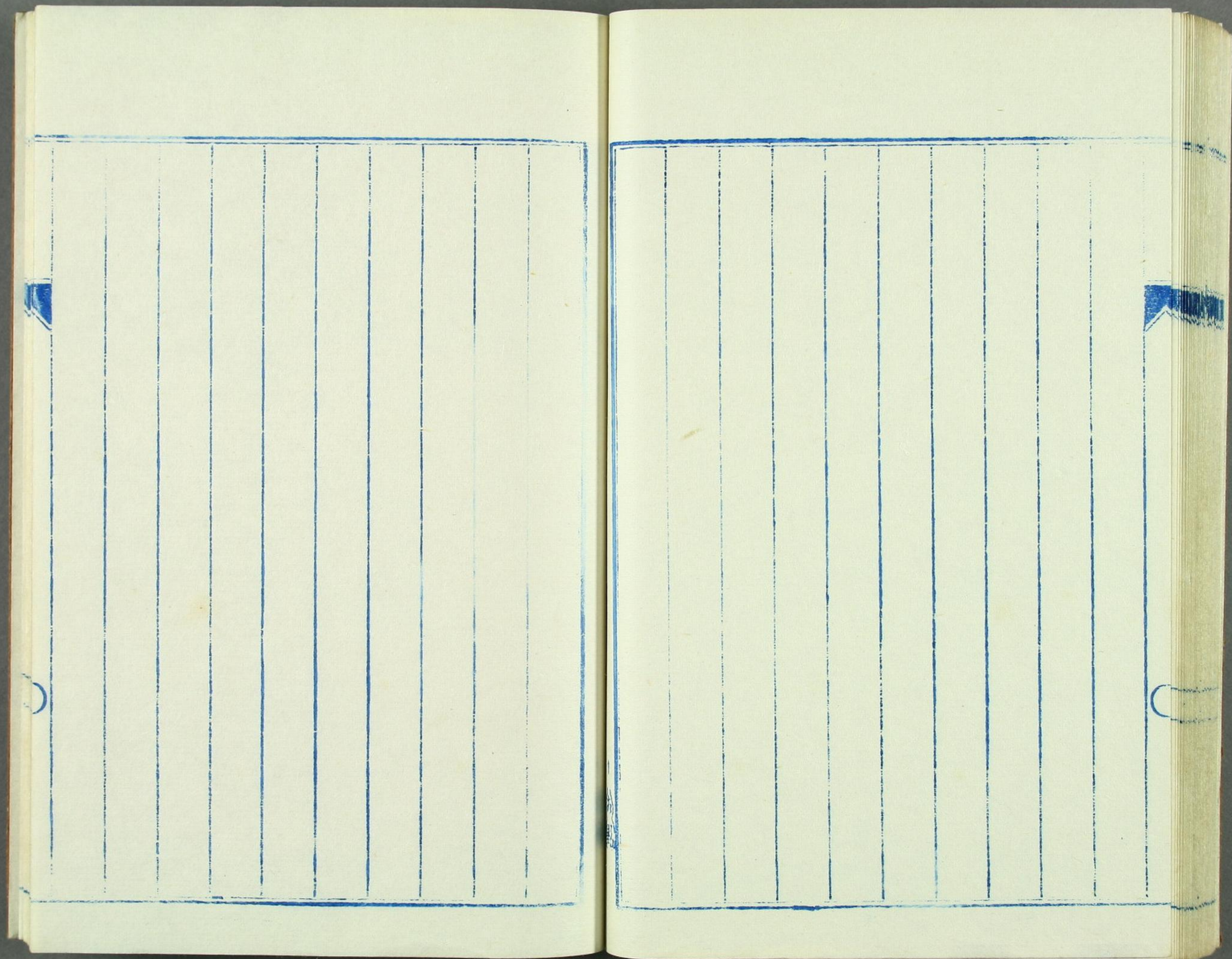
珍籍と見え、きよ、五方、ある、ある、大  
● 毎日の二種を得、刻念、とろう、ある、  
唯、震災後の、價格が、一層、昂騰、し、此、道  
樂、七、ある、あり、と、行、か、ぬ、有、り、願、ん、と、い、ふ、を、購  
い、ぬ、自、分、の、手、持、を、都、十、円、から、三、十、円、部、有  
り、と、五、七、十、円、七、拂、ふ、こと、が、ある、本、年、と、い、ふ、を、  
書、物、と、見、る、に、か、粘、着、と、試、み、ま、す、い、か、し、や、  
く、も、五、十、円、に、投、入、し、ま、す、と、い、ふ、こ、の、か、の、為、  
別、に、借、金、十、日、し、ま、す、の、が、家、計、上、の、程、程、と、全、部  
い、ん、て、投、入、し、て、貯、金、と、い、ふ、と、い、ふ、有、り、た、る、

自身が其家の貯金の様子を伺ふ事あり、  
自今の経路上の由致ハ前年と大お違ひあり、  
此物價の高いのを家計の益と云ふも、  
増し口は、時に借金をせしめ給へんが事あり、  
もあつたが、歳收三千円をうける及債を償却  
し此の、いつかの貯蓄状態と後下ることを得  
此、結局を身入二三の金持の株金を拂ひ出たの  
と同様の購入とが、残つた貯蓄が、  
ら貯蓄の先づある事あり、  
本年七月迄を挙げを遠く越ふことハ、  
今年七月迄を挙げを遠く越ふことハ、

本年昔熱海へ行き物欲修善寺に入浴し  
以外、秋後、夏一回秋一回泊宿した、  
校有る、師を以て、他の一回ハ先考  
の年忘を覚むるが、主用ハあつた、  
里が、何と云ふ事あり、  
の趣味もある、  
も起るが、他、  
一年の修業、  
一暇を覚むる事あり、

大晦日録





歲晚支出之部

十一月初旬迄  
十二月末日迄

一 貳千圓

出版部借入金

一 九百圓

長子知力借入金

一 貳百五十圓

早大書附千  
五百圓の内最  
終細目

一 三十圓

江部淳夫遺款  
、書附筆

少 二千七百九十圓也

一 金四百圓

吳勝代

一 金六百五十圓

古池言遠代

一 金六百五十圓

光緒神代

一 金四百五十圓

田上時成代

一 金三百圓

田部と老吉

一 金五十圓

文三三書

一 金五十圓

内子と老吉

一 金六十圓

浅倉公厚書物

一 金三百三十圓

細田忠彦書物

一 金三百圓

村口忠彦書物

一 金百圓

山下忠彦書物

一 金四十二圓

道長別荘

少 千六百九十圓

池田高田書物  
一 千五百圓

一金貳拾月  
一金百五十四  
一金百月  
一金四十二月  
一金廿十月  
一金十七月五亥  
一金十月  
一金十月  
一金六十月  
一金廿十月

軍家家用

下女拾料

改上江料

紅膏銀料

多質心

全綠眼鏡代

今代

麻手巾代

珠珀玉掛

出地

一金五十四  
一金三十四  
一金廿五十四  
一金八十四  
一金九十四  
一金五十四  
一金三十四  
一金七十四  
一金百月  
一金百十月

國考市掛入

海金尾掛

飲合費

山崎光治

弟年書

華代

香代

吉長銀

股印耕石

木山代

小九百二十三

一金十四

一金十三

一金廿七

一金十四

一金九

一金七

一金七

ノ五十四百七十一圓の五

此外

貳百圓

内子年掛

古画 信香

銀葉 葵

植木 尾掛

光平 襦

洋人 櫻本

生花

五十四圓

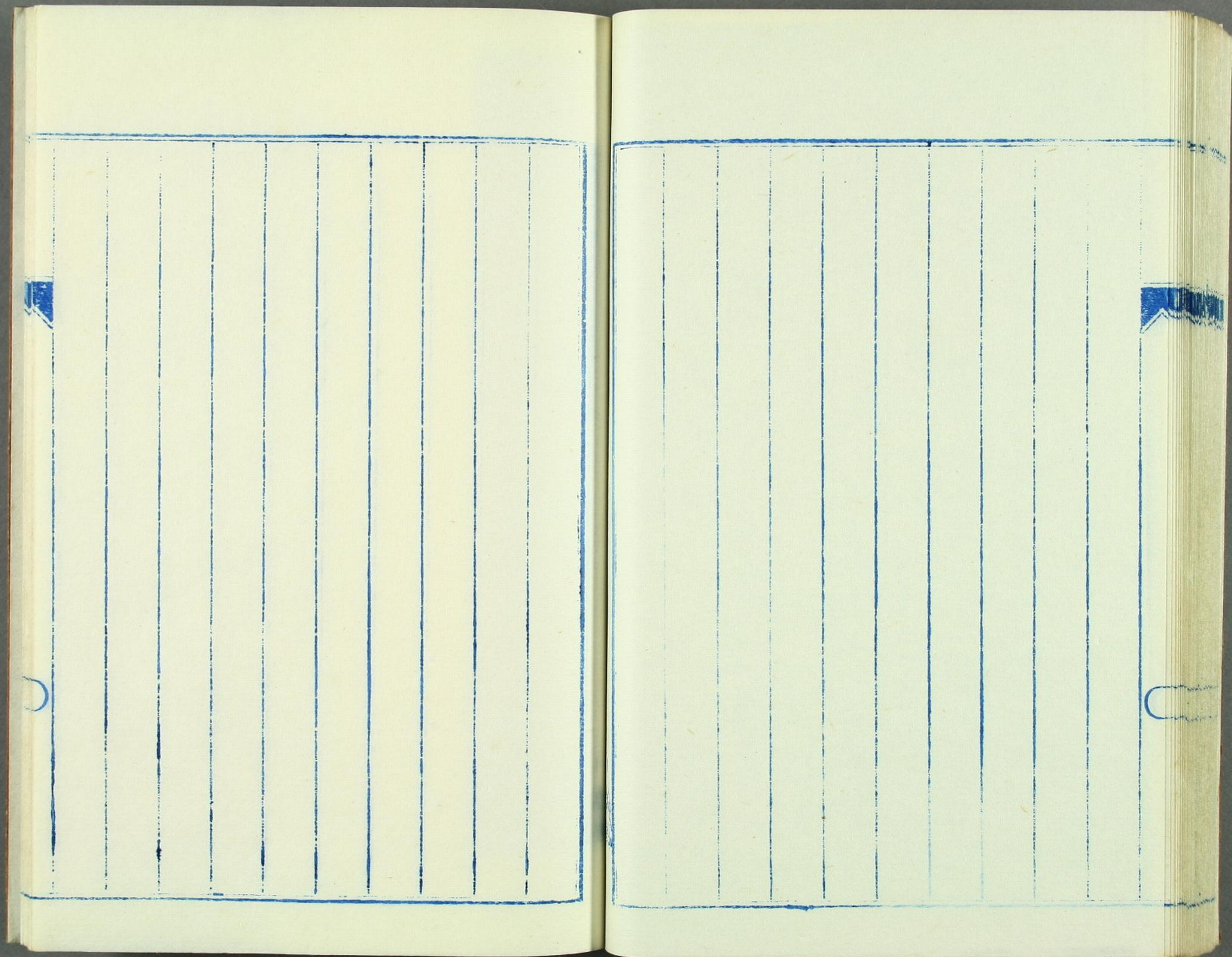
一月分

五十四圓

法能費

拾ノ五十七百七十一圓の五

大昭堂の支出の如し十二月中金収入  
の内千五百圓を剩するは、  
の支出は、  
一原因の



以下全て

白紙

